

群馬県渋川市で全国 107 例目の豚熱 ～県内 16 例目。選択的殺処分の 3 例目～

群馬県と農水省消費・安全局は 10 月 10 日、群馬県渋川市の農場で豚熱が発生したと発表した。疫学関連農場と合わせて約 2800 頭が飼養されており、選択的殺処分の対象として 12 日には合計 1935 頭の殺処分が完了した。全飼養頭数に対する殺処分頭数の割合は 69.1%だった。

群馬県農政部農政課によると、10 月 9 日に豚約 1900 頭(総飼養頭数)を飼養する繁殖農場から、豚熱を疑う症状が増加していると管理獣医師による通報があった。この時点で死亡豚は出ておらず、哺乳豚の下痢、チアノーゼ、活力低下の症状が増えていたとされる。通報を受けて、当該農場と、そこから豚を移動している先、同一経営の離乳農場への立入検査が行われ、離乳農場でも一部異常が確認された。両農場の豚合計 14 頭から採材されて PCR 検査を実施した結果、13 頭が陽性となり、動物衛生検査部門に検体を送付され、確認検査の結果、10 日に患者と確定された。

約 1900 頭を飼養する発生農場は繁殖農場で、繁殖豚は約 600 頭。移動先の離乳農場では、約 900 頭が収容されていた。ワクチンの接種日齢は明らかにされていないが、ワクチン接種は繁殖農場で済ませたあと、離乳農場に移動されていた。発症が哺乳豚から離乳豚に及んでいることから、この時期の子豚を感染・発症防御するだけの免疫が確立されていなかったことになる。離乳農場で育成された豚は別の肥育農場に移動されるが、肥育農場で異常は確認されていない。

患者確定後に行われる県によるウイルスの「拡

散状況確認検査」の結果、繁殖農場については飼養豚約 1900 頭のうち 1321 頭(繁殖豚 600 頭を除く哺乳豚全頭)が殺処分対象になったと考えられる(ワクチン未接種・接種後 20 日以内、発育不良豚は無条件で殺処分対象となる)。疫学関連の離乳農場では飼養豚約 900 頭のうち 621 頭が殺処分された。2 農場全体で殺処分された豚の割合は 2800 頭のうちの 69.1%、繁殖農場に限ると 69.5%、離乳農場に限ると 69.0%となる(飼養頭数の確定数は公表されていないので要注意)。最初に選択的殺処分が適用された静岡県県の 105 例目では、発見・通報の遅れから殺処分割合が 91.0%に達した(殺処分を免れたのは約 130 頭の母豚のみ)のに対し、愛媛県の 106 例目は 56.7%にとどまっていた。今回のケースはスリーサイトのうちの繁殖・離乳農場の範囲にとどまったが、母豚 600 頭、総飼養頭数 6000 頭の一貫農場を想定するなら、感染範囲が同等で肥育舎の殺処分が回避された場合、全体の殺処分割合は 32.2% (1935/6000)にとどまる計算となる。

繁殖農場の分娩舎では、防疫措置が終了するまでの間(11 月 2 日完了の見込み)に生まれる新生豚は殺処分の対象となる。離乳農場の豚は、約 3 ヶ月間、監視プログラムが適用されて移動制限がかけられるが、防疫措置完了から 1 週間おき 2 回の消毒を実施したあと、肥育農場への移動が認められる。

なお、愛媛県大洲市の 106 例目では、選択的殺処分の対象が当初、飼養豚約 4000 頭のうちの 1800 頭(45.0%)と想定されていたが、最終的には 2267 頭(56.7%)に及んだ。早期発見・通報が以前にも増して重要になっている。

8 月輸入量は前年比 8.3%増の 8 万 140 t ～ASF 発生から間もなく 1 年のスペイン 1933t～

財務省「貿易統計」によると、8 月の豚肉輸入量は 8 万 140tで、対前年同月比 108.3%となった。内わけは、生鮮・冷蔵(チルド)が 3 万 2776t(対前年 108.0%)、冷凍が 4 万 7341t(108.4%)だった。2026 年度の累計(4～8 月)量は 45 万 6541tとなり、前年同期比 107.5%の高いペースで推移している。

国別に見ると、①カナダ 2 万 2209t(107.0%)、②米国 1 万 8358t(117.2%)、③ブラジル 1 万 3970t(171.4%)、④メキシコ 7647t(107.4%)、⑤デンマーク 6040t(318.6%)、⑥チリ 3822t(148.7%)、⑦スペイン 1933t(13.1%)、⑧その他 6160t(195.4%)、などとなっている。昨年 11 月 28 日の ASF 発生により輸入停止が続いているスペインからの輸入は、ようやくゼロに近づいている(昨年 10 月 30 日以前にパッキングされた豚肉・加工品の輸入は認められているものの、発生から間もなく 1 年を経過しようとしている)。スペインは 2025 年度に 14 万 5534t輸入した第 3 位の輸入元であり、その代替供給先としてブラジルをはじめ各国の輸入量の増加が目立っている。

口蹄疫終息記念セミナー11 月 20 日に ～15 回目、豚事協との共催でハイブリッド開催～

(一社)日本養豚開業獣医師協会は 11 月 20 日、日本養豚事業協同組合(豚事協)との共催により、第 15 回口蹄疫終息記念セミナーを開催する。都内会場での対面とオンラインでのハイブリッド開催となる。

■日時 2026 年 11 月 20 日 13:00～17:00

■場所 AP 東京八重洲 11 階 K ルーム
(東京都中央区京橋 1-10-7 KPP 八重洲ビル)

■会費 無料 懇親会 9000 円(税込)

■プログラム

①農場防疫のための生産システムの実例(仮題)

…石淵大和(熊本興畜(株))

②ドイツにおけるアフリカ豚熱(ASF)

…Andere Ona Marco Verdugo(ドイツ)

③海外からの家畜伝染病の侵入防止、水際対策について…國分玲子(農林水産省動物検疫所羽田空港支所長)

④口蹄疫～2000 年、2010 年そして 20XX 年～
…末吉益雄(宮崎大学名誉教授)

▼参加申込方法:下記のフォームから

・会場(11 月 12 日締切))

<https://forms.gle/4JGm8HEhvdKsUzQaA>

・Web(当日)

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_Jkxi082HSmitApx8-0ebQg

PRRSフォーラム本大会 10 月 30 日に ～東大弥生講堂とオンラインのハイブリッド開催～

PRRS フォーラムは 10 月 30 日、第 4 回本大会を開催する。東京大学弥生講堂での対面とオンラインのハイブリッド開催で、今回のテーマは「生産者視点から見た PRRS 対策」。生産現場からの参加を広く呼び掛けている。今回初めて(一社)日本養豚開業獣医師協会(JASV)の後援を受けての開催となり、産官学一体で、現場に即した PRRS 対策の構築を目指す。

■日時 2026 年 10 月 30 日(金)13:00～17:30

■場所 東京大学 弥生講堂・一条ホール

(〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1)

■会費 1 人 2000 円(オンライン同額、学生無料)

■プログラム

◎第 1 部 生産者事例紹介

・PRRS 陽性でもベンチマーキング上位、今後陰性化を目指す(仮)…北田好克((株)北守)

・PRRS 陰性化と陰性を維持する秘訣(仮)

…稲吉克仁((有)マルミファーム)

◎第 2 部 参加者からの疑問・質問を討議

▼参加申込方法:下記のフォームから

・PRRS フォーラム HP「PRRS フォーラム本大会」からオンラインで申し込む。

<https://prrs-forum.jp/taikai04/>

・事前申込締切:2026 年 10 月 23 日。以降は当日参加扱い(当日参加の場合も HP より「仮申込み」の登録が必要)